

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol 115】

明興産業株式会社（兵庫支部）

今回は兵庫県神戸市長田区にある明興産業(株)の代表取締役社長 手崎 祐一 様を訪ねました。

本社住所	兵庫県神戸市長田区苅藻通 1-3-1
電話／FAX	078-651-5271/078-651-5233
資本金	5,000 万円
設立	昭和 31 年 6 月
成形機	熱可塑性射出成形機 計 11 台
従業員数	100 名



手崎 祐一 社長

会社の概要

現会長の父親が三菱電機(株)様で勤務をしていた時に、当時成形品を納めていた会社が廃業し代わりに製造したのが創業のきっかけとなりました。当時は大学にも行っており、長くこの仕事を続けようとは考えておらず、工場が火事で焼失した際もお客様に断ろうと思い申し出を行いました。しかし、お客様から「サプライヤーとして製品を供給する義務がある」と言われ、どの様なことがあろうとも供給しようと決意をしたというエピソードを聞いています。

社名の由来は、明るく仕事をやろう・明るく会社を興そうということで明興産業(株)としたそうです。

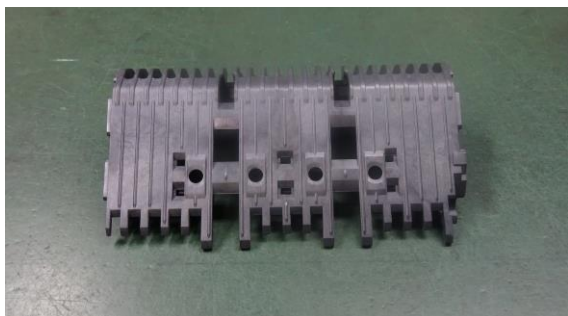


会社外観

製品について

設計から造形モデル、成形及び塗装（EMI波シールドを含む）シルク印刷・超音波溶着など、お客様のあらゆるニーズにお応えし、金型製作から成形品の量産・ユニット組立てまでを手掛けています。また、環境問題にも力を入れており、生分解性プラスチック成形などにも取り組んでいます。主にレジスターや携帯電話の充電器や光ファイバーのモデム、バイクの部品、両替機の内臓部品、医療関係の製品などの工業用部品を小ロット多品種で製造を行っています。使用している材料についてはバリエーションが豊富で、ABS、PP、PE、PS、PMMP、POM、PC、PA、P

B Tなどを使用しています。多くの材料を使用しており、管理には気を配っています。弊社には開発部があり、そこでは設計の専任者が製品設計・電気設計をおこなっています。開発も多数手掛けており、設計から製造まで一貫してものづくりができる環境を整備しています。現在は産学協同での開発も実施しています。成形法は、熱硬化性樹脂の直圧成形と熱可塑性樹脂の射出成形の両方を行っています。直圧成形については、国内では外注先で、中国工場では社内で行っています。



製品の一例

当社の強み

～設計から量産まで対応～

ものづくり・開発ができるということで、お客様のアイデアを試作から量産まで弊社で全て引き受けて、提案できるというのが強みです。設計ができ、ものづくりを理解している人材は大手の会社でもそれほどいません。ものづくりに関するアシスタントの役目が必要になってきますが、その役目を弊社が担うことにより、スムーズにものづくりを行うことができると考えています。製品設計・電気設計が可能であり、神戸、丸亀、中国に工場を有していますので、いずれかの工場で一貫して完成品までできることが独自の技術であると考えています。また、プラスチック加工やアッセンブリも弊社で行っています。実際に工場で作っているので、試作段階で原価やコスト削減の方法が十分理解できることから、コスト削減の提案を実施して顧客から喜んでいただいていると思います。

弊社の取組

～行動の明確化・評価の明確化～

弊社では今年から手帳サイズの事業発展計画書を作っています。この計画書には、弊社のあるべき姿、従業員がすべきことを記してあり、全従業員が所持しています。今後の経営の方針として、会社と従業員のベクトルを合わせ、意識の共通化を図るために手帳という形にして、今年1月に事業

発展計画発表会を開き全従業員に内容の説明を行いました。この行動のきっかけは、社長就任時に会社の方針と従業員の考え方に大きく隔たりがあると感じたからです。会社が何を求めているのか？何をすれば評価してもらえるのか？が不明確だからです。それを埋めるために、会社の考えていること、従業員に求めている内容、評価すべきポイントなど、やるべきことを単純化し行動方法、考え方を確認できれば良いのではと思ったからです。お客様への考え方、何かあった場合の対応方法などこの手帳

を見て行動すれば良いのです。当然この手帳に書いてある内容をできる人は評価が高く、できない人は評価が低くなります。この内容を評価基準として明確にし、提示してあげれば本人が今後改善する内容が見えてきます。幹部に対しても、勉強会を開催し、意識の共有化を図っています。クレームが私まで報告されていなかった事例がありました。顧客の対応をしたときに、実はこういうことがあったと報告を受けたときに私は報告を受けていなかったのですが、担当者及びチーム全員を呼び再度事業発展計画書の中身を徹底することの重要性を説明しました。その後はきちんと報連相ができるようになり、一つのきっかけとなる出来事でした。



海外進出

ベトナムに進出したきっかけは、まずはお客様の要望です。お客様が中国で生産していたものを一部ベトナムに移管していくという計画があり、この機会に弊社もベトナムに進出することも決めました。東南アジアの経済圏はTPPやASEANの関税撤廃等の動きがあり、弊社は東南アジアの経済圏には生産拠点がなく、東南アジアの生産拠点としての位置づけにしたいと思っています。国が違って関税が撤廃されれば、物の流れが一つの国の様になると考えています。タイやミャンマーなどに連絡拠点があれば、そこから仕事を受注することも可能になります。今後東南アジアでのビジネスにおける重要な拠点としたいと考えています。

※ 会社を拝見して ※

プラスチック成形だけではなく、幅広い分野の製品を製造しておられ、お客様のアイディアをもとに設計から量産の対応をされ、製品を形にしていく高い技術力があると感じました。社員への教育にも力を入れておられ、『会社としての考え方を明確に示す』という取り組みは、社員のベクトルを合わせるだけでなく、モチベーションを上げるためにも効果があるのではないかと思います。

◎ありがとうございました
取材：事務局 平田・平

※本記事記載の情報については、2015年5月28日現在のものとなります。

掲載希望の方は事務局(06-6214-8300)までご連絡ください。